

No.1314 犬の乳腺腫瘍 (岐阜大学)

[動物]犬, シーズー, 避妊雌, 10歳9ヵ月齢

[臨床症状]2021年4月6日, 子宮蓄膿症と診断され, 同時に計4か所の乳腺腫瘍がみつかった。4月8日に子宮・卵巣とともに1か所の乳腺腫瘍が外科的に摘出された。同年11月19日, 残り3か所の乳腺腫瘍の摘出手術が実施された。その際, 下顎の皮膚腫瘍も同時に摘出された。提出標本は2回目の手術で摘出された乳腺腫瘍のうちの1つで, 右側第4乳腺から摘出された。

[肉眼所見]摘出された腫瘍の大きさは直径8mmであった。ホルマリン固定後の腫瘍の断面は白色で, 充実性であった。

[組織所見]乳腺組織において, 卵円形の核と中等量の好酸性細胞質を有する腺上皮由来腫瘍細胞が, 大小不規則な管腔様構造を形成しつつ増殖していた。腺上皮由来腫瘍細胞の周囲では, 卵円形の核と紡錘形から星状の細胞質を有する筋上皮由来腫瘍細胞が, 豊富な粘液の産生を伴いつつ増殖していた。これら筋上皮由来腫瘍細胞に混じて, 軟骨の形成も観察された。また, 腺上皮由来腫瘍細胞に連続して, 類円形から卵円形の核と好酸性の豊富な細胞質を有する肝様腺様細胞が, 大小の胞巣状に増殖していた。免疫組織化学染色では, 腺上皮由来腫瘍細胞は, Cytokeratin (CK) 14に陰性, CK19に陽性を示した。一方, それらに連続する肝様腺様細胞は, CK14に陽性, CK19に陰性で, 正常な肝様腺 (肛門周囲腺)と同様の染色パターンを示し, さらに, p63に陽性を示した。

[診断]肝様腺細胞への分化を伴う乳腺良性混合腫瘍

[考察]組織学および免疫組織化学的特徴から, 乳腺腫瘍内で胞巣状に増殖する細胞は肝様腺に分化した腫瘍細胞であると判断した。さらに, 腺上皮由来腫瘍細胞と連続する領域が観察されたことから, 肝様腺様細胞は腺上皮由来腫瘍細胞から分化したと考えられた。また, 本症例の下顎の皮膚腫瘍は肝様腺腫であったが, 発生部位が離れていることや組織学的に良性で浸潤性が乏しかったことから, 乳腺腫瘍内あるいはその近傍に遠隔転移したとは考えにくく, 今回提出した腫瘍との関係性は低いと判断した。これまで, 犬の乳腺腫瘍における皮脂腺への分化は数例報告されている [1-4]。しかし, これまでに肝様腺への分化を伴う乳腺腫瘍の報告はなく, 本例がその初の報告と考えられる [5]。(文責者:平田暁大, 大塚成己)

[参考文献]

- 1) S.-C. Chang et al., Mammary carcinoma with sebaceous differentiation in a dog. *Vet. Pathol.* **44**:525-527. 2007.
- 2) F. Grandi et al., Sebaceous metaplasia in a canine mammary gland non-infiltrative carcinoma with myoepithelial component. *J. Vet. Diagn. Investig.* **23**(6):1230-1233. 2011.
- 3) K. Yasuno et al., Mammary adenoma with sebaceous differentiation in a dog. *J. Vet. Diagn. Investig.* **23**(4):832-835. 2011.
- 4) A. G. Kurilj et al., Complex mammary adenoma with sebaceous differentiation in a dog.

J. Comp. Path. **144**:165-167. 2012.

- 5) N. Otsuka et al., Benign Mixed Mammary Tumour with Hepatoid Gland Differentiation.
J. Comp. Path. **197**:35-39. 2022.